

令和元年度スポーツ推進審議会 各委員からのご意見まとめ

Q 1 : 乳幼児や子どもを対象にしたスポーツ・レクリエーション事業について、ご意見、ご感想をお聞かせください。

- ・ 0～2 歳児を対象に、雑木林で外遊びをする事業に取り組んでいる。体力づくりの基礎となる内容の活動なので、スポーツに結び付くものとする。
- ・ 幼児期に楽しみながら外遊びで体力づくりに取り組むことは効果的で、学生の場合では競技を限定せず様々なスポーツに取り組む機会を作ることが良いと考える。
- ・ 夏休みにラジオ体操会を行うと、体操を覚えていない小中学生が多い。良い文化なので学校体育で行うなど、存続できたらと考える。
- ・ 乳幼児期の野山での活動は、運動神経を養うことや親子での参加に効果的なので、取り組みが増えたらよいと考える。また、中高生を対象に活動の指導者を育てることも必要だと考える。
- ・ 森林の公園にアスレチック等の設置も子どもの運動推進につながると考える。

Q 2 : 成人や高齢者を対象にしたスポーツ・レクリエーション事業について、ご意見、ご感想をお聞かせください。

- ・ 高齢者は老人会等の所属単位で、高い頻度で積極的なスポーツ活動に取り組む方が見られる。一方で成人は競技スポーツなど高度な活動内容が見られる一方で、日頃スポーツを行わない一定数の層にいかに参加してもらうかが大切と考える。
- ・ 地区体育館で管理人をしている立場から、各時間帯で利用者層が異なり施設や個人にあったスポーツに取り組んでいる方が多いと考える。成人は夜間に利用する方が多いが、人数が少ないのでリーダーを育成するなど活動を広げる取り組みが必要と考える。
- ・ スポーツニーズに対するアナウンスの強化が大切と感じる。気軽に身近に利用できる場所や、道や広場などの活動場所の整備が大切と考える。
- ・ 開放的な場所があると良い。他市町村では、託児所のある公共施設でヨガ教室やピラティ

ス教室を開催したり、プール、トレーニング施設に託児所が併設されている場合があり、子育て世代が気軽にスポーツに参加するきっかけになっていると考える。

- ・スポーツをやらない理由や世代を見ると若い世代、子育て世代が多いので、子供と一緒に参加できる内容や手軽にできる内容であると、体を動かすきっかけとなるので、若い層の活動を増やしていくことも大切と考える。

Q.3 障がい者を対象にした（または含めた）スポーツ・レクリエーション事業について、ご意見、ご感想をお聞かせください。

- ・卓球やバドミントンなどの、子どものスポーツ団体の活動に障がい者を受け入れて一緒に活動することで、柔軟に障がいを受け入れる感覚が身につくと考える。
- ・障がい者スポーツ団体の活動を実施するにあたり、様々な種目の特性や必要な施設等についての理解を深めることも必要と考える。
- ・既存のスポーツイベントや大会に障がい者を受け入れる場合、施設設備面で不十分であったり、様々な配慮が必要な点もあると思うので、実際に障がい者の方からも意見を伺い反映できると、より具体性のある意見を取り入れられると考える。

Q.4 民間施設が主催する教室について、ご意見、ご感想をお聞かせください。

- ・主婦層が参加する民間教室では、託児施設の併設などの例がある。様々な年齢層でニーズに基づいた民間教室があるが、参加費の負担で誰もが参加できるものではないと考える。
- ・民間教室では技術指導に傾倒しがちな傾向があるので、特に子どもでは教育的な指導とのバランスが難しいと考える。
- ・苦手なスポーツの克服や体力づくりなど、通年で運動を続けられる環境があるのは良い。また、民間教室では前向きな声掛けなどがあり、雰囲気良く取り組めるので一般的なチームスポーツにも取り込めたらと思う。
- ・民間教室では指導力はあるが競争原理が働く場合があり、苦手な子どもは辞めてしまうことがあるが、ボランティア指導の団体の方が地域で参加者を見守るので長く続けられる。両団体が共存できるものと考え。

Q.5 最新の市民意識調査報告書（平成26年度）では、週に1日以上運動やスポーツをしている方が41%であり、運動・スポーツを行わない理由として、「時間がないから」「仕事や家事で疲れているから」との回答が上位となっています。

スポーツ推進計画では、週1回以上のスポーツ実施率（成人）50%以上をめざしており、運動・スポーツをしていない方を活動に結びつけるには、どのような教室・講座が効果的だと思いますか？ご意見をお聞かせください。

- ・運動から離れている層に対して、運動を始めたいとする取組みの情報発信が弱いのではないかと考える。
- ・高齢者層になってから運動習慣を作ることは難しいので、40代～50代の忙しい層が運動できるような働きかけがあると良いと考える。
- ・スポーツ種目の枠にとらわれず、親子で公園で遊んだり、ゆるスポーツのように高齢者・親子・障がい者など誰でも気軽にできる運動を、スポーツのハードルを下げて取り組むことが大切と考える。
- ・競技者、アスリートを対象とした事業よりも、親子や障がい者など区別なく一緒に遊びから取組めることが大切。遊びを通してスポーツ活動の裾野を広げることが、運動のきっかけになったりアスリートの輩出につながるのではと考える。
- ・社会人は仕事の時間がネックになり、年齢を重ねるごとに運動から足が遠のく傾向にある。親子で参加できるスポーツフェア等をきっかけに、家族で参加するスポーツ種目やイベント、クラブへの加入などがあればスポーツを継続できるのではないかと考える。
- ・時間、場所、道具、団体などに縛られない運動だと忙しい世代にも行いやすい。通勤電車で行えるものや、昼休みなどに数人で楽しく行える運動など、サークルや種目にこだわらない気軽に楽しめるスポーツが良いと考える。

Q.6 その他、市内のスポーツ・レクリエーション事業について、ご意見、ご感想をお聞かせください。